

6年

光貞防災・減災プロジェクト 1

総合的な学習の時間／単元名「光貞防災・減災プロジェクト」

(30時間)

ねらい：自分たち、地域の防災意識に関する課題を見つけ、課題解決に向けて積極的に働きかけ思考・判断・発信をすることを通して郷土への愛着を深めながら、災害に立ち向かおうとする態度を育てる。

地域の防災の取組を知る



光貞市民センター館長より、地域の防災訓練や災害時の様子を聞く。

光貞市民センター館長を招いて（1 / 30時間）

「光貞地区を防災に強いまちに」願いを知る

導入の1時間目は、事前アンケートに答えた児童の調査結果を共有しました。アンケートの結果から、「避難する場所は知っている」「家族と話し合いをしている」という児童が多いということが分かりました。

しかしその反面、「その災害に向けての避難袋等準備はできている」の数値は、低い結果でした。この結果をもとに自分たちの課題をとらえるとともに、地域の防災についても十分に知らないことから、光貞市民センター館長の福澤館長をお迎えし、地域の防災に関する様子をお聞きした。浅川中（光貞地区）では、これまで大雨や台風が来た時の地域の避難の様子や市民センター主催の防災訓練等の取組について教えていただきました。館長さんの話からも、浅川中（光貞地区）は、川や海からも遠く、高台に居住する世帯が多いという実態とコロナの感染拡大もあり地域の防災訓練の参加が年々減ってきていることをお聞きした。年々、気象災害が頻発する現状から、「ぜひ、光貞小のみんなで、光貞を災害に強いまちにしてほしい。」という願いが館長から語られました。児童は、自分たちの防災についての課題と地域の課題、そして館長の熱い願いを聞き、防災に強いまちにしていきたいという思いが高まってきました。

地域・保護者とともに調査



各班の児童の安全確保をしながら、保護者や地域の方々とともにフィールドワークを行いました。



校区の「危険な場所」「安全な場所」を調査したものを書き込み「災害安全マップ」を作成しました。

校区内の危険・安全な場所をフィールドワークで調査

(3 / 30)

光貞地区調査と災害時安全マップの作成

児童と保護者、地域の方々と共に光貞校区内の「危険な場所」「安全な場所」の調査にフィールドワークを行いました。いつも歩く通学路やいつも遊ぶ場所などが、台風や地震、大雨の時はどのような危険が想定されるか、考えながら活動をしました。GIGA 端末で写真を撮り、どのように危険なのか等を1クラス、6班に分かれて出かけました。

その後、調査したものは、写真とともに防災マップに書き込み、自分たちのまちの危険を知らせる「災害時安全マップ」として掲示しました。自分たちの目で確かめた危険な場所は、実際の災害時には、生きた情報となります。また、児童が保護者や地域の方々と一緒に活動を行うことで、防災について話し合うきっかけとなり、自然と家庭を巻き込みながら防災に対する意識を高めていきました。

6年

光貞防災・減災プロジェクト2

～自分たちのまち・市の危険を知り、防災・減災について発信する～

- 総合的な学習の時間 / 単元名「光貞防災・減災プロジェクト」
- 社会科 / 単元名「災害から私たちを守る政治」（関連4時間）

ねらい：自分たち、地域の防災意識に関する課題を見つけ、課題解決に向けて積極的に働きかけ思考・判断・発信をすることを通して郷土への愛着を深めながら、災害に立ち向かうとする態度を育てる。

避難三原則を知る



北九州市の近年の災害の様子を伺いました。また、災害時の「避難3原則」を教えてください。

危機管理室の尾上さんを招いて（6 / 30時間）

北九州市の災害の様子を知る

これまでに児童は、光貞地区の「危険な場所」や「安全な場所」をフィールドワークで調査を行い「災害時安全マップ」を作成してきました。その後、範囲を広げ北九州市内の災害を知るため危機管理室の尾上さんを講師に招き、近年の北九州市内の災害の様子や災害時に大切なことについてお話をいただきました。話の中で避難3原則「①想定にとられるな②最善をつくせ③率先避難者たれ」を教えてくださいました。また講話の最後に「ろうそくの火は消えても灯すことはできるが、一度消えた人の命の火は消えると灯すことはできない」という言葉に児童は、命の重みを感じながら、防災に対する意識を高めていきました。

釜石市の復興への願い



釜石市に建設された「釜石鶴住居復興スタジアム」に込められた住民の願いを知りました。

他教科との関連を図る（1～4 / 4時間）

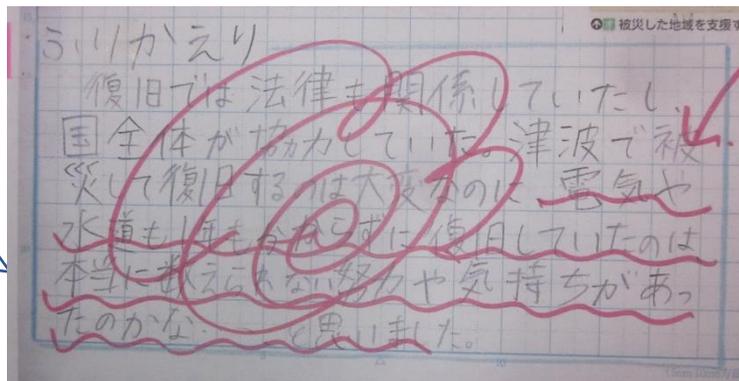
社会科 / 単元名「災害から私たちを守る政治」

東日本大震災での大規模な被害を受けた人々の支援や復興に向けた取り組みについて学習を行っていきました。この単元では、被災直後の復旧に向けた取り組みや復興に向けてどのようなまちづくりが行われてきたのかなどを学習していきました。被災した直後に市役所に災害対策本部を設置し、災害救助法をもとに国や他の都道府県に協力を求めることや自衛隊や赤十字社に救助を要請することなど社会科の学習の中での政治の働きや役割について学んでいきました。

この学習を通して、災害から私たちの命や暮らしを守るためには、国や都道府県、市町村が進める取り組み（公助）とともに地域の人々の助け合い（共助）や自分や家族の命を守る（自助）を組み合わせることが必要であると分かりました。

社会科の学習の「振り返り」の記述から

復旧では、法律も関係していたし、国全体が協力していた。津波で被災して復旧するのは、大変なのに電気や水道も1年もかからずに復旧していたのは、本当に数えられない努力や気持ちがあったのかなと思いました。



6年

光貞防災・減災プロジェクト3

～自分たちのまち・市の危険を知り、防災・減災について発信する～

- 国語科／単元名「私たちにできること」（書く 10時間）
- 総合的な学習の時間／単元名「光貞防災・減災プロジェクト」

ねらい：自分たち、地域の防災意識に関する課題を見つけ、課題解決に向けて積極的に働きかけ思考・判断・発信をすることを通して郷土への愛着を深めながら、災害に立ち向かおうとする態度を育てる。

相手の心を動かす提案文を



各クラス7つのグループに分かれて GIGA 端末で提案プレゼンを作成した。どうしたら聞いている相手の心に届く内容になるかを何度も話し合った。

他教科との関連 国語科「私たちにできること」

具体的な事実や考えをもとに提案文を書く。（10時間）

総合的な学習の時間を通し、校区内の危険箇所等を調査するフィールドワークを行い、校区内の災害の実態を知りました。また、危機管理室の講師の先生からも北九州市内の災害の実態についても知ることができました。これらの知り得た事実をもとにどのような課題や問題があるのかをグループで話し合い、それらの課題を解決するための方法を発信していく計画を立てました。

国語科の目指す、知識や情報のつながりに気付いたり、様々な立場にある人の考えを関係づけたりしながら読む人の心を動かす提案文を個々の児童が書いていきました。その後、総合的な学習と関連づけるため、個々の児童が書いた提案文をもとにグループになり、GIGA 端末で提案プレゼンを作成し、全校学習である「いのちの学習」で発信する計画を立て準備を進めていきました。

「あの日、あの時・・・」



釜石市「いのちをつなぐ未来館」の方とオンラインでつなぎ、被災した時の様子や必死に避難した時の児童生徒の気持ちを聞いた。

釜石市とオンラインでつないで 総合的な学習の時間

防災訓練と津波てんでんこ—釜石市「いのちをつなぐ未来館」

国語科の提案文を書いていく中で「実際に被災した人々の気持ちや願いを知りたい」またそれらを伝えていきたいという児童の申し出から、岩手県釜石市の「いのちをつなぐ未来館」の方とオンラインでつないで、11年前に実際にその当時被災生徒であった川崎杏樹さんにお話を聞くことができました。発災時川崎さんは不安を抱きながらも、地域の人たちと一緒に必死に逃げた当時の様子を語ってくださり、それを聞きながら児童は、災害の凄さやの恐ろしさを感じていました。また、発災前から、地震と津波を想定した避難訓練を学校で繰り返し取り組んでいたことや地域の方々と一緒に防災訓練を行っていたことを聞きました。また、「津波てんでんこ」といつ昔から「津波が起きたら家族が一緒になくても気にせずてんでばらばらに高所に逃げ、まずは自分の命とを守れ」という意味の合言葉を紹介してくれるなど、自分の命は自分で守る大切さを教えてくださいました。最後に「私たちに何かできることはありますか」の児童の質問に、災害をよく知ることや自分の住むまちのよさを知って地域の人とコミュニケーションを図り、災害に備えてほしいとおっしゃっていました。

6年

光貞防災・減災プロジェクト 4

～自分たちのまち・市の危険を知り、防災・減災について発信する～

●理科／単元名「土地のつくりの変化」（関連 4 時間）

ねらい：自分たち、地域の防災意識に関する課題を見つけ、課題解決に向けて積極的に働きかけ思考・判断・発信をすることを通して郷土への愛着を深めながら、災害に立ち向かおうとする態度を育てる。

自然の凄さを学ぶ



いのちのたび博物館よりゲストティーチャー（GT）を招き火山活動や地震の凄さや地層の成り方など自然の恐ろしさや豊かさを学びました。

被災者の気持ちを知る



専科指導の教師の東北大震災の時の話を聞きながら、当時の被災者の辛い気持ちや家族を亡くした悲しさを実感した経験を聞き、災害による心の痛みも知ることができました。

他教科との関連を図る（1～4 / 4 時間）

理科／単元名「土地のつくりの変化」

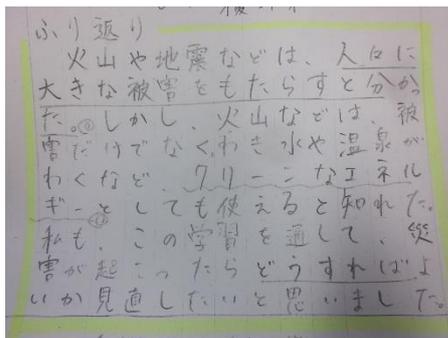
理科の学習「土地のつくりの変化」では、いのちのたび博物館よりゲストティーチャー（GT）を招き、体験学習を行いました。

5年生の時に「流れる水のはたらき」で浸食・運搬・堆積の学習と関連させながら、「地層はどのようにできたのか」、「火山活動や地震で土地はどのような変化をするのか」など流水実験をしたり、化石をさわったりしながら楽しく学習していきました。この体験学習を通し、「火山や地震は建物や命を落としたりするが、温泉を作ったり発電したり良い面もある。」と自然の厳しい一面と併せて自然の豊かさも学ぶことができた。

この単元後半では、専科指導教師から地震による災害と関連付けながら、危険を回避する警報や避難の重要性を学びました。授業展開では、専科指導の教師の東北大震災の時の話を聞きながら、当時の被災者の辛い気持ちや家族を亡くした悲しさを実感した経験を聞き、災害による心の痛みも知ることができました。

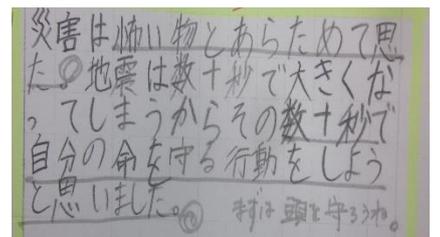
学習の「振り返り」の記述から

火山や地震は、人々に大きな被害をもたらすと分かった。しかし、火山などは、被害だけでなくわき水や温泉がわくなどのクリーンなエネルギーとしても使えたと知れた。わたしもこの学習を通して災害が怒ったらどうすればよいか見直そうと思った。



学習の「振り返り」の記述から

災害は怖いものと改めて思った。地震は数十秒で自分の命を守る行動をしようと思いました。



6年

光貞防災・減災プロジェクト 5

～自分たちのまち・市の危険を知り、防災・減災について発信する～

●総合的な学習の時間 / 単元名「光貞防災・減災プロジェクト」

ねらい：自分たち、地域の防災意識に関する課題を見つけ、課題解決に向けて積極的に働きかけ思考・判断・発信をすることを通して郷土への愛着を深めながら、災害に立ち向かおうとする態度を育てる。

災害に備える



災害に備える取組や災害発生時の行動、避難所での過ごし方など全児童に向けて災害に向けての正しい知識、備えの大切さを伝えてくれました。



復旧・復興を伝える



令和2年熊本豪雨災害があった人吉・球磨地域へ被災地訪問をした子ども達から、報告会もこの時に全校児童に向けて行いました。

いのちの学習 (学校行事 1時間)

防災・減災プロジェクト学習発表

6年生では、総合的な学習の時間「防災・減災プログラム」で子ども達が、災害について学び、調べてきたことを班ごとにプレゼンにまとめてきました。この学びを発信する場として「いのちの学習」(9/30)と「防災減災学習発表会」(10/20)を計画しています。

先日30日(金)は、全校児童と地域、保護者の方を招いて「いのちの学習」を行いました。まず、夏休みに令和2年熊本豪雨災害があった人吉・球磨地域へ被災地訪問をした子ども達から、報告会がありました。想定を超えた被災の凄さや復興に向けまちを上げての取組が伝えられました。

次に各クラスの代表グループから、災害に備える取組や災害発生時の行動、避難所での過ごし方など全児童に向けて災害に向けての正しい知識、備えの大切さを伝えてくれました。地域の方々からも「災害について子ども達がよく調べ懸命に取り組んでおり感心しました。」「改めて、災害について考えるきっかけとなりました。」と子ども達の発信から心が動いたことや災害に備える思いが高まったことなどの感想をいただきました。当日は、この学習に携わってくださった北九州市危機管理室の尾上さんや光貞市民センター福澤館長にも来ていただき、子ども達の頑張りを見ていただき価値づけしてくださいました。学び多き1時間となりました。

防災減災プロジェクトの学習に当初から関わってくださっている北九州市危機管理室の尾上さんや光貞市民センター福澤館長にも来ていただき、子ども達の頑張りを見ていただき価値づけ、防災の大切さを伝えてくださいました。



地域のお世話になっている方々や保護者の方々にも来ていただきました。

